

※答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受験

番号

(その1)

I 次の文章を読み、1～2の問いに答えなさい。

イネは、コムギや（1）とともに世界三大穀物の1つで、アジアを中心に世界各地で栽培・利用されている。

アジアイネの起源は、インド東部の（2）、ミャンマー、ラオスおよびタイ北部から（3）にかけての山岳地帯と推定されており、稲作の始まりは、いまから7000～9000年前にさかのぼるとされている。そして、西方のインドや南部の東南アジア、東部の（4）や太平洋地域に伝播し、①それぞれの地に適した生態型に分化したと考えられている。

わが国へは、日本型イネが（5）下流域から直接、あるいは朝鮮半島を経由して、（6）時代後期に北九州に伝来した。その後、しだいに東方へ広がり、（7）時代中期には本州最北端の青森県でも稲作が行われていたと推定されている。②現在では、北海道にいたる日本各地で栽培されている。

イネの一生は、たねもみの発芽に始まる。③たねもみは、条件が満たされると、鞘葉と幼根を出して発芽する。成長するにつれ、④たねもみから伸びた茎からは、新しい茎が出、葉や根も増えていく。その後、⑤分けつが最も多くなる期間をむかえる。この時期になると⑥穂のもとがつくられ、分化、成長して穂となり出穂期を迎える。出穂・開花・受精後は、⑦籾の中に米粒が形づくられて充実し、成熟期に達する。発芽から収穫までの期間は約（8）日で、このうち幼穂発育期は約（9）日、登熟期は約（10）日である。

1 上の文中の（1）～（10）にあてはまる語句を、下記語群から選び答えなさい。

(語群)	中国	中国雲南省	長江(揚子江)	縄文	弥生
	アッサム	トウモロコシ	30	30～50	120～185

2 次の問いに答えなさい。

- (1) 上の文中の①のアジアイネの三タイプを答えなさい。
- (2) 上の文中の②の日本で広く栽培された理由を3つ答えなさい。
- (3) 上の文中の③ここから伸びた茎は何と呼ばれますか。
- (4) 上の文中の④この茎は何と呼ばれますか。
- (5) 上の文中の⑤この時期は何といいますか。
- (6) 上の文中の⑥この穂を何と呼びますか。
- (7) 上の文中の⑦この米粒を何と呼びますか。

II 次の文章を読み、1～2の問いに答えなさい。

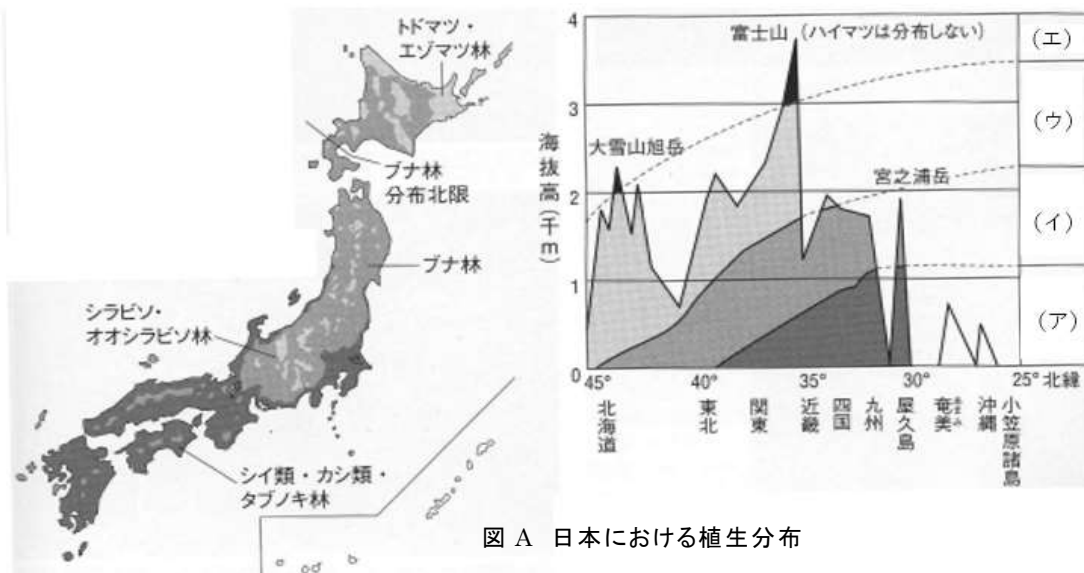
日本列島は、沖縄から北海道まで、森林が成立する気温と湿度の条件に恵まれている。  
 ①南北に長い日本列島では、気温によって森林のようすが変化する。日本列島の森林は、南から北へと、オキナワウラジロガシ・スタジイなどの常緑広葉樹を中心に、ガジュマル・木生シダなどからなる( 1 ), シイ類・カシ類などの常緑広葉樹を主とする( 2 ), ブナ・ミズナラ・カエデ類の落葉広葉樹を主とする( 3 ), トドマツ・エゾマツなどの常緑針葉樹を主とする( 4 )が分布している。また、②気温は標高が高くなるにつれて低下し、植生分布に影響する。例えば本州中部では低山帯(丘陵帯)林、山地帯林、亜高山帯林、高山帯(寒帯)のハイマツ低木林や高山植物の草原へと変化する。

1 上の文中の(1)～(4)にあてはまる語句を、下記語群から選び答えなさい。

(語群)	亜寒帯林	亜高山帯	亜熱帯林	低山帯
	夏緑樹林	山地帯	照葉樹林	高山帯

2 次の問いに答えなさい。

- (1) 上の文中の①の部分は何と言いますか。
- (2) 上の文中の②の部分は何と言いますか
- (3) (2)の分布を、下図Aを見て、(ア)～(エ)に適する語句を答えなさい。
- (4) (3)の分布において、森林限界はどこどこの間になるか答えなさい。



図A 日本における植生分布

III 次の間に答えなさい。

- 1 収穫後に収穫物に対して行われるさまざまな技術を何と言いますか。野菜の予冷、サツマイモのキュアリング、イネの乾燥・調製など。
- 2 作物の必須元素の中で特に不足しやすい元素の肥料成分を何と言いますか。
- 3 もともとその地域に生息している生物を何と言いますか。